

# Y's NEWS

2018.10月 vol.14

## ワイズニュース

### すっかり秋です

10月も下旬になり、日もだいぶ短くなって朝晩も冷えこんできましたね。まだ寒さに慣れていない身体には少しキツいですが、この朝晩の冷え込みで木々の葉が色つき、きなづな紅葉を観ることができたり、おいしい秋の味覚を楽しむことができると思うと、素敵なお季節だなと感じます。

ただ、体調を崩したり疲れが出やすい時期でもあります。

太陽の光を浴びると体内時計がリセットされ、副交感神経が優位になり、リラックス効果を増進させる働きがあるそうです。そして、新鮮な空気に触れると、心身ともにリフレッシュ効果が期待できます。

屋内で仕事をしていると、なかなか外の空気を浴びることが少ないので、少しの空き時間に散歩をしてみたり、公園に行ってみたりしてみるのもおすすめです。外出が難しい場合は窓を開けて深呼吸したり、お休みの日に紅葉狩りなどしてみるのも素敵ですね。

発行：株式会社ワイズ

〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-7-13-3F  
TEL. 046-240-9695 FAX. 046-240-9697

月～金 9:00～17:00  
土・日・祝 休み  
AM受付分は当日発送致します。

## ヘアカラーについてのこんなことあんなこと

さて、今回から数回にわたってヘアカラーについてのお話をしたいと思います。ヘアカラーの歴史や変遷、種類やその違いなど、わかりやすくお話ししていくべきしておりますので、お付き合いいただけると嬉しいです。お客様とのコミュニケーションにも是非お役立てください♪

1回目の今回はヘアカラーの歴史1(古代～中世)のお話です。

その歴史は、はるか昔の旧石器時代の後期(約3万年前～約1万年前)にはじまり、儀式の際に樹木の汁などを使って髪を染めたことと言われています。この時代に髪を染める技術があったとは驚きですね!

紀元前3500年の古代エジプトでは髪をヘナで赤橙色に染めていたとされる遺物が残されています。また、アッシリア(現イラク)では、動植物・鉱物から作られた白髪染めを使用していたという記録も残っています。

そして紀元前350年の古代ギリシャでは、髪をブロンドに染めたとの記録が残っています。古代ローマの貴婦人達は、金髪に強く憧れ、茶色の髪を金髪にするために大変な努力を重ねていたそうです。その方法は、アルカリで洗った髪を太陽光に数時間もさらし続けて脱色するという、髪をひどく傷めるものでした。

中世になると、キリスト教が染毛だけでなく、化粧全般を全て不道徳なものとしたため、千年間もの長い間染毛は排斥され続けました。しかし、文化的に髪を染めるという行為は細々ながらも続けれられ、ルネサンス後期の16世紀の終わり頃、ベニスで再び金髪がゲームになりますが、方法はやはりアルカリと太陽光によって金髪を得るものでした。

一方、日本における最古のヘアカラーの記録は、平安時代末期の1183年に「平家物語」に墨を使って白髪を黒く染めていたことが記されています。また、源氏の戦いで武将「斎藤実盛」が「最後こそ若々しく戦いたい」という思いから白髪の頭を鉱物性の無機顔料を使って黒く染めていたと史実に残されています。

美しいブロンドヘアに憧れたり、若々しさを保とうと白髪を染めたり、私たちと変わらない願望が当時のの人にもあったことは大変興味深いですね!

次回は、ヘアカラーの歴史2(近代～現代)のお話です。お楽しみに♪